

- 共通テスト説明会
- GTEC
- 学校推薦型選抜について
- 7月模試の結果(1・2・3年生)
- 進路資料室の利用について

大学からの招待状

地理歴史科（日本史）横川和則

都立高校の教員となり 20 数年が経ち、高校時代や大学院修了後も続けた塾講師時代まで含めると 30 年以上も日本史の大学入試問題に向き合い続けています。「そんなにやっていて飽きないの？」などとたまに聞かれますが、全く飽きません。それは日本史の入試問題がたまらなく面白いからです。入試問題は単なる知識を試すものではなく、知識を土台に、歴史の醍醐味である「なぜそうなったのか」「その出来事が社会にどんな意味を持ったのか」まで問うてきます。さらに「一緒にこのテーマを考えよう」「こんな視点で歴史を考えてほしい」「一緒に学問の扉を開こう」と大学の先生方が熱く語りかけているのです。入試問題とは未来の学問的対話へと誘う扉、いわば大学の先生方からの招待状なのです。面白くないわけがありません。

例えば 2025 年度の東京大学の「7 世紀から 8 世紀における中国文化の受容の変化について述べよ」という問題。求められたのは遣隋使や遣唐使の知識を並べるだけではなく、中国文化の受容が律令国家の形成や仏教の浸透、日本社会の変容にどう関わったかを論じることです。「知識を超えて歴史の意味を考える学生に来てほしい」という先生方の熱い訴えです。一方、2025 年度の一橋大学の「奈良から鎌倉時代にかけての災害とその社会への影響について述べよ」という問題。災害を覚えてだけでは不十分で、災害が律令体制の揺らぎや武士の台頭、宗教的救済運動とどう結びついたかを分析する力が問われました。「歴史を事実の集積としてではなく、社会の仕組みを理解するための学問として学んでほしい」という先生方の熱い訴えです。

以上はほんの一例でしたが、皆さんが進学を目指すそれぞれの大学の日本史の入試問題には、他教科・他科目と同様に、それぞれの大学の先生方の熱い思いが込められています。志望大が決まったり悩んだりしたら、入試問題に当たってみてください。それぞれの大学の先生方がどのような人物像を求めているかを掴むことができると思います。そして全大学に共通するのが「学問を共に探究できる仲間を求めている」という先生方の真摯な思いです。私は教える立場にありますが、大学の先生方からの問いの前では一人の学ぶ者にすぎません。歴史をどう読み解き、どう語るかは、私にとって常に挑戦であり続けています。その際に一番の拠り所となるのが教科書です。教科書は歴史の流れを体系的に整理し、事実を信頼できる形で提示しています。どんなに高度な問題も、教科書の理解を基盤にすれば解答への道筋を得ることができます。参考書や問題集も有用ですが、土台は常に教科書です。教科書を用いて日々の授業と一緒に学んでいきましょう。

大学からの招待状である入試問題に謙虚に耳を傾けて、教科書や日々の授業を土台に自分なりの答えを模索する。その歩みは、受験を越えて、大学での学び、そして将来の社会での生き方へと繋がっています。新宿高校教職員一丸となり、私も皆さんと共に悩み、考え、学び続けていきます。

○共通テスト説明会

9月10日（水）共通テスト説明会を実施し、パワーポイントで今後の出願に向けての流れや注意点の説明がありました。今年度よりWeb出願となり、「受験案内」「受験票」も各自ダウンロードする形になっています。

○GTEC

9月17日（水）1，2年生対象に英語4技能テストGTEC（アセスメント版）を実施しました。アセスメント版は調査書等に記載できるものではありませんが、4技能の力をスコアで把握することができます。GTEC（検定版）、実用英語技能検定等、英語外部試験のスコアを入試で利用できる大学や受験方式が増えています。1，2年生のうちに調べ、積極的に外部受験することをお勧めします。

○学校推薦型選抜について

学校推薦型選抜の校内選考が始まりました。学校推薦型選抜とは、学校長の推薦を受けて出願する選抜方式で、校内の選考会議を経て推薦者が決まります。毎年、9月中旬に申し込み、選考会議があります。出願前の書類に加え面接や小論文を課す学校が多いため、準備に時間がかかり、夏の実力養成期に学習に専念できない等のデメリットはありますが、第一志望の大学が学校推薦型選抜を行っていた場合、チャンスのひとつとなります。

大学の推薦基準は様々ですが、多くは3年間の評定平均値、および高校での生活態度（欠席日数など）に基準を設けています。校内選考でも評定平均値が高い者、欠席・遅刻・早退の少ない者が上位となります。志望している大学に推薦がある場合は、1，2年時から意識することが大切です。

○7月模試の結果（1・2・3年生）

夏休み前に受験した進研模試の結果が戻ってきました。各学年の状況と、今後心がけるべきことをまとめてみました。

・1年生

3教科総合の平均偏差値は昨年とほぼ同じですが、英語が1.5ポイント下回っていました。英語は文系、理系とも受験で大きな比重を占める教科です。基礎の取りこぼしがないよう、既習範囲をしっかりと見直しましょう。国語では古文、数学では数と式、英語では長文読解の分野の得点率が低かったようです。高校生活にも慣れてリズムができてきたことと思います。学習時間を確保し、2年後、どんな進路でも選べるように（≒弱点科目があるために進みたい道へ行けないことがないように）、日頃から基本的な事項をミスなく丁寧に解ききることを意識しましょう。

・2年生

3教科総合の平均偏差値は昨年より1ポイント程度上がりましたが、成績にバラつきが見られ、伸び悩んでいる人が多いように思われます。志望校を記入できるようになったので、合格者下限得点なども意識して目標にしてみましょう。全体として国語は古文、漢文、数学は図形に関わる問題、英語は長文と表現力の分野が弱いようです。各自、模試の見直しをしっかりと行い、演習量を増やすなどして、弱点を克服し、基礎学力を固めましょう。国語・数学・英語の基礎学力を固めるのは2年生のうちです。

・3年生

3教科総合の平均偏差値は昨年よりやや下がりましたが、英語は1.5ポイント上昇しています。前回の進研模試（2年11月）と比べても成績を保っており、基礎力の定着が感じられます。「進研模試合格ライン2025」には、各大学学部、昨年度合格者の平均偏差値が掲載されていますので参考にしてください。ただ、今回の模試でまだ偏差値が足りなかった場合でも、現役生は最後まで伸びます。夏休みの頑張りが表れるのは9月以降の模試です。特に理社は、ここからが本番です。例年、この時期の模試でE判定から合格した先輩がたくさんいます。強化すべき教科・分野が分かって良かったと前向きに捉えて、学習を進めましょう。学校生活のリズムを崩さないことが大切です。

○進路資料室（赤本部屋）の利用について

赤本は、国公立大学が進路室前廊下、私立大学が進路資料室内にあります。

間もなく赤本の最新版（2026 年度入試用）が入荷します。こちらは、全て（国公立大学・私立大学ともに）赤本部屋の奥の棚上に置く予定です。

赤本部屋内には、赤本以外に、大学入試問題正解（年度・科目ごとに全国の大学入試問題を集めたもの）、各予備校などの模試の問題（全国模試の他に、冠模試

の問題）があります。赤本と同様に借りることができますので、是非、利用してください。

赤本など貸し出しのルール（再掲）

廊下に置いてある貸出簿に必要事項を記入すれば借りられます。1 回に借りられるのは 3 冊まで、貸出期間は 10 月までは 1 週間、11 月以降は 2 泊 3 日となります。最新版（2026 年度）は閲覧のみです。赤本以外の資料も同じです。みんなが使うものですから、ルールを守って利用しましょう。

先輩からの言葉

他人の目を気にするな. 自分なりの「カッコイイ」にフラフラ飛びつけ

東京工科大学 工学部 教授 博士(理学)

49 回生 大久保 友雅

「大久保、頼むから卒業式は何もしないでくれよ…」

担任の先生から卒業式の前日に言われた言葉である。こういう人間にまで原稿依頼が来るとは、同窓会が執筆者集めに相当困っているか、はたまた私の悪名が忘れ去られる程度に月日が経ったか…と、実に感慨深い。「先輩として偉そうに人生訓を語って下さい（脳内で過剰解釈した意識）」という依頼を受け、タイトルを決めた。ただし、高校時代の悪童っぷりを「カッコイイ」武勇伝として語るほど無分別ではないので、その話はやめておこう（ここまで読んで依頼者もさぞ安心されることだろう）。

私は今工学部で教授をしているが、何を隠そう元々は文系人間であり、高校の数学 II の実力テストで 100 点満点中確か 12 点ぐらいだった。ベクトルが全く分からず、理系のセンスは自分には無いと絶望していたという、見紛う事なき理系劣等生であった。だから、それまでになりたかったのは小学生の時は小説家、中学の頃は弁護士、高校に上がる頃には中国哲学の学者だった。どれもこれもどう見ても文系である。その時その時で「カッコイイ」と思った物に「なりたい!」と言っていた誠に軽薄な輩であった。特に中高では、三国志を皮切りに、孫子、韓非子、老子、莊子、論語、荀子、墨子…と中国哲学を漢文で読んでいる可愛くない生徒であった。以前女子学生にその話をしたら「ヤダー」と全力で言われたが、大切な点は本人はそれが「カッコイイ」と思ってやっていた点である。クリスマスイブに男だけで集まった際は「剣道部の主将で成績優秀なのになんでモテキャラじゃねえんだよ?」と友人に言われたことがある。ここまで直言出来るとは私も良い友人を持ったものだが、答えは当然「女子から見たら全くカッコよく無かった」のだろう。ただし、今振り返っても当時の私がダサかったとは思わぬ。まあ服装がダサかったことぐらいは認めても良いが、

そんな私が理系への進学を考え始めたのは「なんとなくカッコイイ」という理由でエネルギーに興味を持ったからだ。そこで私は「中国哲学は独学でも学べるが、エネルギー等の研究は大規模な研究設備等が

無いと学べないだろう」という浅はかな考えに基づき、東京工業大学（現東京科学大学）に入学し、エネルギーの学者への道へと邁進した…わけではなかった。エネルギーに関連しそうな応用物理学科に行ったのに「プログラミングがカッコイイ」と情報科学科の授業に潜り込んでばかりで留年しそうになり、研究室選びは「流体の動きのシミュレーションが作れたらカッコイイ」と、応物でも情科でもない機械系の研究室に無理矢理入った。大学内でも「カッコイイ」を追い求めてフラフラしていた。

さて、研究室に入ったからには後はさすがに学者への道をまっしぐら…ではなかった。私は企業に就職するつもりだった。学者になる気ゼロ。しかし、就活中に参加した国際学会で研究発表をした際に、海外のとっても偉そうな先生（本当に偉いかは知らない）に私の研究をととても褒められた。そこで急に「カッコイイ学者」のイメージが湧いた私は、意志薄弱、優柔不断、三日坊主、朝令暮改…と様々な4字熟語で表現出来るようにフラフラと博士課程への進学を決めたのである。

更に紆余曲折があった話は紙面の関係上割愛するが、とにかく「カッコイイ」を見つけてはフラフラした結果が今の私である。そして、フラフラと広くしてきた経験が今に生きている。

大抵の人からは私はきっと「変な奴」と見られているだろう。ただ「変な奴」と見られて損をしたことは意外と無いし、未だに高校時代の同級生や剣道部の先輩後輩と集まっては楽しくやっている。勿論大学も。だから、諸君には声を大にして言いたい。

『自分なりの「カッコイイ」にフラフラ飛びつけ』

大事なのは「他人から見てカッコイイ」ではなく「自分がカッコイイと思う」のが大切だ。きっと、他人から見たらこんな文章を書いているのは「まあた大久保がやらかしてるよ…」と思われるんだろうが、今の私としては「同窓会から依頼が来てこんなところに駄文を書いている俺、カッコイイでしょ。」と思っている。

…と、本当は挫折した経験を端折った文章で終わるとやっぱりウソっぽいので、最後にちゃんと書いておこう。

『他人からの目ばかり気にすると生きるのが辛いから、自分で自分を褒められる何かは持とうぜ』

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）

※今後の予定（進路関係）

10月4日（土） 駿台ベネッセ記述模試（3年生）

22日（水） 分野別模擬講義（午後・2年生）